

世界の原子力産業動向と日本への示唆  
**World Nuclear Industry Status Report [WNISR] 2021 年版**  
発表イベント  
**2022 年 1 月 19 日 (水) 18:00-19:45**  
オンライン・イベント  
(日英同時通訳付き)

共催：  
政策研究大学院大学グローバルヘルス・イノベーション政策プログラム  
公益財団法人 自然エネルギー財団

今や世界でもっとも信頼できる原子力産業の現状報告書として定着した、World Nuclear Industry Status Report (WNISR) 2021 年版が、2021 年 9 月 28 日に公表されました。今年、東京電力福島第一原子力発電所事故の 10 年目にあたることから、特別に福島事故の現状について 33 ページにわたる報告が含まれています。全体でも 400 ページを超える、これまででも最長の報告書となっています。例年と同様、世界の原子力発電の稼働、新設、廃止等に関するデータのほか、各国別の詳細な分析に加え、最近話題となっている小型モジュール炉 (SMR) の分析、気候変動対策としての位置づけ、原子力と犯罪、再生可能エネルギーとの競争等の報告も含まれています。これらの世界的な情勢分析は、日本のエネルギー・環境政策や企業の経営判断にとっても、極めて重要で有用な情報と思われま

そこで、日本の皆様に特別に出版記念オンライン・イベントを企画いたしました。国会の東京電力福島原子力発電所事故調査委員会で委員長を務められた黒川清名誉教授、ならびに自然エネルギー財団のトーマス・コーベリエル理事長にもご参加いただきます。プログラムの概略は次の通りです。

記

総合司会 トーマス・コーベリエル (公)自然エネルギー財団理事長

- 18:00 開会挨拶 主催者代表  
黒川 清 東京大学・政策研究大学院大学名誉教授、東海大学特別栄誉教授
- 18:10 World Nuclear Industry Status Report 2021 概要発表  
マイケル・シュナイダー、エネルギー問題コンサルタント
- 18:30 WNISR2021 福島 10 年後の報告  
崎山 比早子、3.11 甲状腺がん子供基金代表理事、
- 18:40 WNISR2021 鈴木達治郎 長崎大学教授 「日本の原子力の状況について」
- 18:50 WNISR2021 原子力、気候変動と再生可能エネルギー  
アントニー・フロガット、エネルギー政策コンサルタント、Chatham House (英国王立国際問題研究所) 上級研究員
- [マイケル・シュナイダーによるまとめ]
- 19:00 質疑応答
- 19:25 閉会挨拶 トーマス・コーベリエル (公)自然エネルギー財団理事長
- 19:45 終了

\*2021 年 12 月 24 日現在。プログラムや登壇者は変更となる場合があります。

参加登録 (申し込み必要、参加費無料) : [https://zoom.us/webinar/register/WN\\_bKLOuXY2TqmToYKtwRrf4w](https://zoom.us/webinar/register/WN_bKLOuXY2TqmToYKtwRrf4w)

## 登壇者プロフィール

トーマス・コーベリエル



スウェーデン・チャルマース工科大学教授。物理資源理論博士。現在はチャルマース工科大学で産業エネルギー政策の教授。ヴァッテンフォール社外取締役を兼務。2008年から2011年までスウェーデンエネルギー庁長官をた。任期半ばで、自然エネルギー財団理事長就任のため退職。2018年から2021年までスウェーデン政府が設立した「気候変動委員会」の委員。

黒川 清



東京大学医学部卒。1969-84年在米、UCLA 医学部内科教授、東大医学部内科教授、東海大学医学部長、日本学術会議会長（2003-06）、内閣府総合科学技術会議議員（03-06）、内閣特別顧問（06-08）、WHO コミッショナー（05-09）などを歴任。国会による東京電力福島原発事故調査委員会委員長（11-12年）、グローバルヘルス技術振興基金代表理事・会長（13-18）、内閣官房健康・医療戦略室健康・医療戦略参与（13-19）現在、新型コロナウイルス対策の効果を検証する国のAIアドバイザー・ボード委員長、世界認知症審議会副議長、政策研究大学院大学・東京大学名誉教授。東海大学特別荣誉教授、日本医療政策機構代表理事。

マイクル・シュナイダー



ドイツ中西部ケルン出身。1997年、高木仁三郎と共に、「もうひとつのノーベル賞」といわれるライト・ライブリフッド賞を受賞。1997年以来、フランス環境省（環境エネルギー省）、ドイツ環境省（ドイツ連邦環境・自然保護・原子炉安全省）等原子力とエネルギー問題に関する研究・調査報告を提出している。2009年8月、ドイツ環境省の委託研究、「世界の原子力産業現状報告—経済性問題に焦点」を担当した。現在、エネルギーと原子力政策に関する独立コンサルタント機関 Mycle Schneider Consulting の代表。

崎山比早子



3.11 甲状腺がん子供基金代表理事。1965年千葉大学医学部卒業、1974年千葉大学大学院医学研究科修了。医学博士。マサチューセッツ工科大学研究員、放射線医学総合研究所主任研究官を経て、1999年から高木学校のメンバーとなる。東京電力福島原子力発電所事故調査委員会 委員。

鈴木達治郎



長崎大学 核兵器廃絶研究センター(RECNA)副センター長・教授。工学博士(原子力工学)。2010年1月から2014年3月まで原子力委員会委員長代理。核廃絶を目的とする科学者グループ「パグウォッシュ会議」評議員。アジア太平洋核不拡散・軍縮リーダーシップネットワーク(APLN)理事。2017年衆議院原子力問題調査特別委員会アドバイザーボードメンバー。

アントニー・フロガット



英国王立国際問題研究所(チャタム・ハウス)上級研究員。国際エネルギー問題の独立コンサルタント。ウェストミンスター大学、およびサセックス大学科学と政策研究ユニットにて学ぶ。最近では、エネルギー・気候変動政策に与える英国 EU 離脱の影響、技術変化と気候リスク(特に中国)などを研究。主要著書・報告書に「世界の原子力産業の現状と成長の機会」(2011)、「持続可能なエネルギー安全保障、戦略的リスクとビジネス機会」(2010)、「原子力施設の廃止措置基金の比較分析」(欧州委員会、2007)。